



県政に勇気！ 南魚沼に元気！

ひぐち
秀 敏

元気通信

2019 / 1 第5号

発行責任者: 柴田恵美子
南魚沼市塩沢771-12ノ-ビル
ひぐち秀敏後援会
電話: 025-782-5233

恒例の朝のあいさつで、市民の声援に
手を振って応えるひぐち秀敏



柏崎刈羽原発の
再稼働反対

ひぐち秀敏 (57歳)

ひぐち秀敏と集う会

『in塩沢』

と き 2月2日(土) 13:30~14:30
ところ 塩沢勤労者体育センター

『in六日町』

と き 2月7日(木) 18:30~19:30
ところ 南魚沼市民会館

『in大和』

と き 2月17日(日) 14:00~15:00
ところ 南魚沼市広域働く婦人の家

『in湯沢』

と き 2月23日(土) 13:30~14:30
ところ 湯沢町公民館



防護服を着た写真を手に、避難生活について語る早川千枝子さん

葉郡を視察してきました。以前訪れたときには所狭しと置かれていたフレコンバッグは、ほとんど見られません。東京オリピックに向けて安全性

をPRするため、急ぎ中間貯蔵施設に運び込まれています。植葉町の宝鏡寺で、寺に住む早川千枝子さんから避難時の実態をお聞きしました。

3月11日の事故時には原発事故の話は一切な

二度と避難はしない

原発ゼロこそ犠牲者の願い

く、翌12日に防災無線で避難指示が出された。避難がどんなものかもわからず、着の身着のままにいわき市に避難した。

一時帰宅した家はカビが生え、畳が腐り、雨漏りがしていた。泥棒が壊したところから小動物が入り込み、荒らされ放題だった。子どもの思い出の品も泣きながら捨てざるを得なかった。

帰町して3年。以前と



7年8カ月前のまの富岡第二中学校。卒業式当日に東日本大震災が発生した2011年11月16日

変わらぬ季節の変化を肌で感じる。原発事故は何だったのだろう。「もう二度と避難はしない」という人が多く、植葉で死ぬといっている。それほど避難生活はひどかった。昔の生活に戻れた人は一人もいない。原発が

私達も「ひぐち秀敏」さんを応援しています



前県知事選 候補者
池田 ちかこ



参議院議員
森 ゆうこ

ゼロになるのであれば、私たちの犠牲も無駄ではなくなる。

お話を聞き、原発事故は生活のすべてを奪うことを再認識しました。このような悲劇を二度と繰り返さないためにも、柏崎刈羽原発の再稼働を認めず、再生可能エネルギーに向けた政策転換が必要です。